



Vol. 556 令和3年2月

NEWS



NPO 法人 横浜発明振興会

今月の行事

2月「ハマ発明教室」オンライン開催

1月実験的にオンライン開催した「ハマ発明教室」は、参加者から集合型と同等・それ以上という評価をいただき、発明活動の情報交流の場として十分機能することがわかりました。引き続き感染リスクを避ける必要があることから、2月も会員限定でオンライン開催します。

と き 令和3年2月14(日)

午後1時～1時45分入室(15分前入室を)

開始2時～4時30分

ところ ZOOMオンライン上に集合

参加URL:

<https://us02web.zoom.us/j/82644013778?pwd=aHUybU9BYWduN2JoVjhBZXJtK1M5Zz09>

(メールアドレス登録済の方には、2/5に送信。

再連絡希望の方は、当会アドレス info@yokohama-hatsumei.com へ連絡を)

1. 作品発表とディスカッション
2. 発明研究会:

「ここでだけ教えます 特許調査のツボ」

既存特許の調査テクニックをオンラインの共有画面ならではの、実践的に学びます。

(注)事前接続テストを希望の方、PCカメラの相談も当会アドレスにご連絡下さい。

なお、3月の発明教室につきましては、オンラインの教室かリアル教室か未定です。

12歳の起業家「スーパー小学生」が これまでの発明を振り返る

小学4年生の時に「物干し補助具」で特許を取得。現在は起業して会社の取締役社長を務める。
社名: 株式会社想いを創る

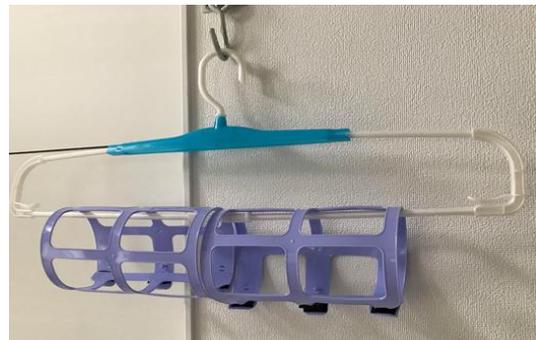
特許取得のきっかけは

「お母さん」

小学3年生の夏休みの宿題で、初めて発明に挑戦しました。

何か作るのなら誰かの役に立つものを作りたい

関本 創(あらた)君
いと思い、お母さんに日ごろ不便に思うことを教えてもらいました。毎日の洗濯でバスタオルだけが乾きが悪く困っていると聞いたので、バスタオルが少しでも早く乾くものを発明したいと思い、取り組みました。最初はペットボトルで制作しましたが、かさばるし、取り外しができませんでした。次に、腕に着ける浮き輪を使って工夫しましたがうまく空間ができず、やはり取り外しも不便です。色々なお店で素材などを探して、やっと完成したのがタオルドライヘルパーです。



(4頁へ続く)

第621回 オンライン・ハマ発明教室

(日曜発明教室)報告

ZOOMにより 1月10日(日)に開催しました。

出席者 役員7名、会員7名 計14名

○第一部 ハマ発明教室発表作品

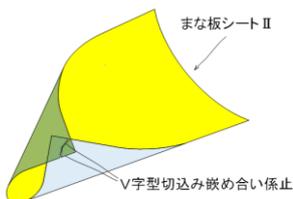
- | 作品名 | 発表者 |
|--------------------------------|--------|
| ① 曲げて使うまな板シートⅡ | 小林 芳人氏 |
| ② プランター家庭菜園用「ナメクジ・キャッチャー」簡単手作り | 鋸屋 卓明氏 |
| ③ 直角壁や対向壁に突張る斜突張り棒 | 桑井 旭氏 |

○投票の結果、次の方に賞が決まりました。

『最優秀賞』

①と③の作品が各5票で受賞。

- ①曲げて使うまな板シートⅡ 小林 芳人氏



従来、柔軟性のまな板シートでは、まな板シートを湾曲させるためには、両手を使わざるを得ない。

課題：まな板シートを湾曲させて片手で安定して持てるようにする。

解決手段：まな板シートノ角部に仮止め用V字型切り込みを設けた。

効果：まな板シートの一端を漏斗状に湾曲できるので食材をこぼさないで鍋等に入れられる。

- ③直角壁や対向壁に突張る斜め突張り棒 桑井 旭氏

斜め突張り棒

目的：本案は、直角壁や対向壁の突張り棒で、従来存在しなかった「斜め突張り棒」の保持具である。

構造：斜め突張り棒タイプは筒体側面に回転穴を設け変形シリコン樹脂で壁面・壁接に、接着すると共に、3本の極細釘(0.9mmX19mm)を左巻き角度45度で打設する構造である。

効果：変形樹脂は、壁面より垂直に保持具の接着力を発揮させ、極細針は壁面のせん断力を強化する事で棒方向の応力は5~25kgとなり、斜めの突張り棒として保持力は充分保障される。

保持具の取り外しが簡単で、ドライバー等を差し込みゆっくり90°右に捻るだけで外れ、接着剤もきれいに剥がれて壁紙を傷つけないで賃貸住宅等でも安心して使え



『奨励賞』

- ②プランター家庭菜園用「ナメクジ・キャッチャー」簡単手作り



「誘引駆除剤」が雨で流れ出さない。

「駆除後の残骸」が容器内に残る。

「捨てる」際に、持ち易い。

材料は使用済ペットボトルを利用し、誰でも簡単に、10分程度で作れる。「生活改善」アイデアです。

○ 第二部 発明研究会

(1)「タイムトラベル お宝発見」クイズ 鋸屋卓明氏

当会は今年 創立 60 年の節目になります。

そこで、今年最初の発明研究会として、保存されているアイデアブックの中から、30 年以上前にタイムスリップし



て、当時の会員の方々が考案された作品 11 件を適宜抽出して、その内容を伝えていただいた。今ではありえない作品もあれば、今でも十分役立つと思われるような作品まで多種多様な作品を知ることができました。それらの作品の紹介と説明に先立ち、各作品一点一点について図面を見て、その作品の題目やその用途を参加者全員で当てるというクイズ形式が取られました。参加者の顔画面から設問画面に切り替えられて、参加者が逐次ひらめいたものを答えていきワイワイ・ガヤガヤと盛り上がりました。最初は図面を見ただけでは何に用いられるかよくわからないものも多数ありましたが、答えをイメージしていくことで集中力を鍛える訓練にもなったように思います。その後、出題者から各作品の回答やその説明、そして今につながる話題なども紹介されました。今回の「お宝発見」によって過去の会員の方々の知恵を学ぶことができ、また発明された結果よりもそれまでに至る過程にこそ価値があることを見い出せたと思います。商品化されて稼ぐことができたものもあれば、一方商品化まで至らなかったと思われるものもありました。いずれにせよ自分では満足したものを作品として残されていて先人の発明への熱き思いとたゆまぬ努力に敬意を申し上げます。

以下、今回の提示作品の題目を列举します。

1. 排熱利用の塵芥装置 (省エネ)
2. 鉄砲の反動空気緩衝装置 (衝撃吸収)
3. トイレ芳香剤容器
3. すり鉢固定器具
5. 最大値計測用ばね秤 (ばね秤の置き針式)
6. 両方から履けるスリッパ
7. 喫煙具 (寝たばこ時の防火機能)
8. 頭髮クリーナー (頭髮掃除機)
9. パンチキス (商品化品)

10. ポップアップトースター用焼き網

11. 斜視図(等測投影法)作成、補助定規

(2)「2021年の抱負」

参加者全員

司会：大庭實氏

司会者から参加者の皆さんに、2021 年の抱負を語っていただくようお願いがあり、参加者全員 (14 名) が、オンラインで「2021 年にあたり新年の抱負」を語っていただいた。

以下に、今回のオンラインで参加していただいた方々の ZOOM 画面の写真を掲載します。



最後に、今回初めてオンライン (ZOOM) による発明教室を実験的に開催し、無事に終わることができました。終了後、参加者全員にアンケート調査を実施し、今回の臨時オンライン教室の評価は、「楽しかった:90%」、「よくわからなかった:10%」となり好評を得ました。また、第一部・作品発表の評価は、「集合型同等レベル:50%」、「集合型より分かり易かった:40%」、「どちらとも言えない:10%」でした。今回の発表作品の量や内容にもよりますが予想以上の高評価をいただきました。

今後、新型コロナウイルスとの戦いが長期化しそうで、会員の皆様も発明教室に行きたくても行けず、そのために作品発表をしたり、発表作品を見られない状況が続きそうです。そこで、昨年 7 月より毎月の集合型開催時にオンラインのテストを行い、オンライン運営に係る基本プロセス、問題点を明確にし、改善策を講じることでノウハウをほぼ蓄積し、かなりの水準に達しました。そこで、オンラインでの発明教室開催で、より多くの方がご参加していただけるように、ZOOM の利用方法をわかり易く案内・指導しますので、遠慮なく事務局へお申し出ください。

(1頁より)

発明の名称:『物干し補助具』

特許(特許第6354011)

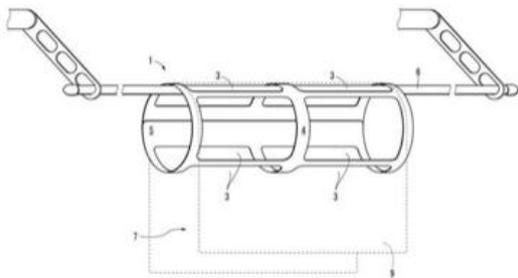
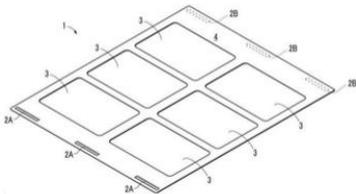
請求項1を引用。

『水平方向に延びる干し物掛けに用いる物干し補助具であって、物干し補助具本体は、可撓性を有する方形上の平板よりなり、前記物干し補助具本体を円筒形に屈曲した状態に両端部を着脱自在に結合させる結合部と複数の通気部とを備え、前記物干し補助具本体を円筒形に屈曲して前記結合部を結合させた後にその結合を解いた際には平板の状態となるように構成され、

円筒形に屈曲した際に周方向となる方向の長さは、円筒形に屈曲した際の内径が前記干し物掛けの外徑よりも大径となるように構成され、

円筒形にして前記干し物掛けに設置したとき、前記干し物掛けに対して回動自在であって、

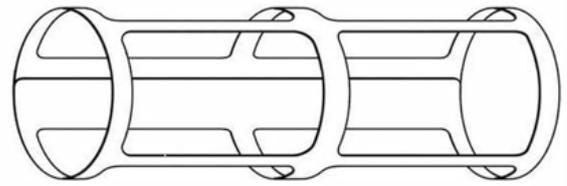
必要に応じて、複数の前記物干し補助具本体を、互いの前記結合部を結合させて接続し円筒形に屈曲した状態においては、内径が拵径した円筒形となるように該結合部が該物干し補助具本体に設けられていることを特徴とする物干し補助具。』



複数の開口部を有する平板部材を丸めて物干し等に取り付けることで使用します。ここに洗濯物をかければ、洗濯物の内側に空間ができ、空気の流通がしやすくなって乾きやすくなるということですね。

意匠に係る物品を『物干し補助具』とする意匠(意匠登録1607634)と、『衣類乾燥用具』とする意匠(意匠登録1636183)の2つが登録されています。

『物干し補助具』の「円筒形に屈曲させた状態を示す参考斜視図」を引用します。



(上記意匠登録1607634の参考斜視図を引用)

「ドライヘルパー」が、100円ショップを展開する東証一部上場のキャンドゥ(本社・東京都)によって商品化される。同社が関本君の特許を活用し1月下旬から2月上旬ごろまでの間に全国販売する。

○テレビ番組の取材を受けました

毎週日曜日の午前10時25分から日本テレビで放送されている「ニノさん」の番組ロケが、1月17日に事務局のあるセルテ11階の共同スペースで行われました。同番組の「それ以外の旅」のコーナーで当会が紹介されます。詳細は追ってお知らせ致します。

○特許権の信託 パソナが参入

出願手続き・運用、一貫で

パソナグループは特許権など産業財産権を扱う信託事業に参入する。日本で初の専門信託会社を設け、2021年1月に業務を開始する。特許出願の手続きや運用などを一貫して担う。日本の特許出願件数は10年前から1割強減り、高い技術力を持つ中小・中堅企業への支援は欠かせない。知的財産の有効活用も世界で重視されており、3年間で1万件の受託を目指す。

パソナグループのグループ会社、パソナナレッジパートナー(大阪市)が「パソナ知財信託」(東京・千代田)を設立した。このほど管理型信託業の登録を受け、1月中に事業を本格的に始める予定だ。パソナ知財信託は特許権や意匠権など産業財産権の信託を専門に扱う。パソナナレッジパートナーは知的財産権の調査業務を中心に、国内で年約7千件の特許出願を支援する。専門の信託会社を設けることで、弁理士法などの制限で難しかった特許権などの出願などのほか運用や権利活用を実施できるようになる。

国内で産業財産権の出願などは、各企業が自社で行うことが多い。特許庁によると資本金100億円以上の企業は知財部門の担当者を21人持つ一方、そうでない企業は5人以下という。

(日本経済新聞1月15日)